

# TIME SCHEDULE

司会進行(オープンイノベーション機構Beyond 2050構想室 香月 亜美)

13:00~13:05	開会挨拶 オープンイノベーション機構 機構長 阿曾沼 慎司
13:05~13:15	Beyond2050趣旨説明 オープンイノベーション機構 Beyond 2050 構想室長・名誉教授 石原 慶一
13:15~13:30	<p>パネリストによる話題提供1 - 「未来社会のデザインーAIシミュレーションと人類史の視点からー」</p> <p>未来社会の予想やデザインはいかにして可能だろうか。たとえば日本の総人口は2008年をピークに減少に転じ、現在の出生率が続けば2050年過ぎには1億人を切り、さらに減少を続けることが予測されている。これは人口や経済が「拡大・成長」を続けるという、明治以降100年以上にわたって続いたトレンドとは正反対のものである。すなわち未来は「過去の延長線上」にはない。こうした関心も踏まえながら、日立京大ラボと行ってきたAIを活用した未来シミュレーション、そして超長期の人類史の視点から、持続可能な未来社会の構想について幅広く考えてみたい。</p> <p>人と社会の未来研究院 教授 広井 良典</p> 
13:30~13:45	<p>パネリストによる話題提供2 - 「人間の情報処理研究の過去・現在・未来」</p> <p>最近の人間の情報処理の研究の発展は、AIの進歩と密接にリンクしている。近年AIは様々なタスクで人間に匹敵する能力を示すようになった。では、人間に匹敵する能力をもった機械は人間と同じような情報処理をしているのだろうか。その答えは、ある側面についてはイエスだし、ある側面についてはノーであり、ある側面については分からない。現時点では、人間だけでなくAIについても内部でどういう情報処理をしているのかきちんと理解できていない。AIの分析を通して人間の情報処理を理解しようという試みも進んでいる。また、AIの情報処理を人間のそれに近づけていこうという試みも進んでいる。今後、人間の情報処理の理解とAI技術の進歩はどのように進んでいくのだろうか。自分がこれまで進めてきた感覚認識研究の流れを手がかりにして考えたい。</p> <p>情報学研究科 教授 西田 真也</p> 
13:45~14:00	<p>「学校現場から考える未来の教育-SIP第3期「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」の始動」</p> <p>パネリストによる話題提供3 -</p> <p>2050年に40歳の働き盛りとなる世代は、今、中学生である。その子どもたちが今、過ごしている学校生活とは、どのようなものなのだろうか。様々な学校との共同研究に取り組んできた経験を踏まえつつ、学校教育の現状について解説する。また、2023年度より開始されている内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム (SIP第3期) の課題の一つ「ポスト コロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における取り組みを紹介する。</p> <p>教育学研究科 教授 西岡 加名恵</p> 
14:00~14:10	休憩
14:10~15:55	<p>パネルディスカッション</p> <p>ファシリテーター 学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野 公樹</p> <p>パネリスト3名(広井、西田、西岡)</p> 
15:55~16:00	閉会挨拶 オープンイノベーション機構 Beyond 2050 構想室長・名誉教授 石原 慶一

※会期終了後、17:00までネットワーキング会(任意参加/京都会場のみ)



京都大学吉田キャンパス北部構内

